教師の声掛け

○　チームタイム

　・課題に応じてドリル・タスクを選べるように。

　　→「どんな自分になりたいの？どんなめあてにしたの？」

　　　「さっきのゲームはどうだった？何が上手になりたい？」

　・コツが分かるように。

　　→「どうしたらシュートが入りやすいかな？」　端をねらう、速く、逆サイドへのパスからシュート

　　　「どうしたらいいパスになる？」　味方が取りやすい、守りに取られないように、動いている味方の少し前に出す、空いている場所に出す

　　　「どう動いたらいいかな？」　守りがいない場所に、シュートを打ちやすい場所に、すばやく

　　　「○○さんはどんなことに気を付けてるの？」　上手な子の意見を広める

○　なかまタイム（ルールの決定、作戦の選択）

　・話合いの視点を明確にする。

　　→「相手もなかまだよ。みんなが楽しめるようにどんなルールを選ぶ？」

　　　「さっきのゲームはどうだった？どうしたらもっと楽しくなるかな？」

　　　「どの作戦をやってみたい？」

　　　「前の時間のゲームも思い出してみよう。どの作戦を選んだらチームが強くなるかな？」

　※「対話的な学びの活性化＝たくさんしゃべっている」ではなく、①**視点に沿っているか②子どもたちが思考**

**をめぐらせているか③話し合わされているのではなく主体的に話し合っているか**ではないかと考えます。

それができていないところに適切に関わってあげたらいいかと思います。また、「話すことが苦手な子＝思

考・判断が低い」ではないと思うので、意見が言えていない子こそ個別に関わって（話合い後とか授業後

でもいいかもしれません）どんなことを考えているのか把握したいものです。

◎　「技能」「思考・判断」が高い子どもへの関わり

→苦手な子のために手を抜いて合わせるなど、いわゆる「ふきこぼれ」にならないように。

→少し高めの目標を。

　・みんなが楽しめるようにどんなルール・作戦を選んだか、根拠をもって

　　・みんなのお手本となるようなボール操作や動きができたか

　　・みんなが取りやすく、シュートしやすいパスを出せたか

　　・みんなが楽しめるように声を掛けたり、雰囲気をつくったりすることができたか　　など

☆　子どもの思考を大切にしたいので、疑問形で尋ねるような声掛けを考えています。そこで出てきた意見を一度受け止めて褒めてあげると自信につながると思います。その上でさらに質問すると、思考が深まるはずです。そして、先生の見取り・評価にも生かすことができると考えます。